

東京のまちづくり

特集1 連続立体交差事業推進中
～踏切がなくなる、まちが生まれ変わる～

特集2 都立公園の池で「かいぼり」を行っています

連続立体交差事業 推進中

都内には、約1050か所の踏切が存在
そのうち200か所以上が「開かずの踏切」



「開かずの踏切」に誰もがイライラ!



バスや救急車も遮断する渡れない踏切!

解消!

～踏切がなくなる、まちが生まれ変わる～

連続立体交差事業とは???

道路整備の一環として、鉄道を一定区間高架化または地下化し、多数の踏切の除却と交差する道路との立体化を一挙に実現する都市計画事業です。

連立事業と一体的に進めてきた複々線が完成



小田急小田原線(代々木上原駅～梅ヶ丘駅間)

渋滞解消で人とモノの流れがスムーズに

地域分断解消により賑わいのあるまちに

ストック効果



高架下に商業施設などを整備し、便利なまちに

事業を契機に再開発等が進展



武蔵小金井駅 (JR 中央線)

踏切解消

連続立体交差事業で、もつと暮らしやすいまちへ。

交通渋滞の解消

After

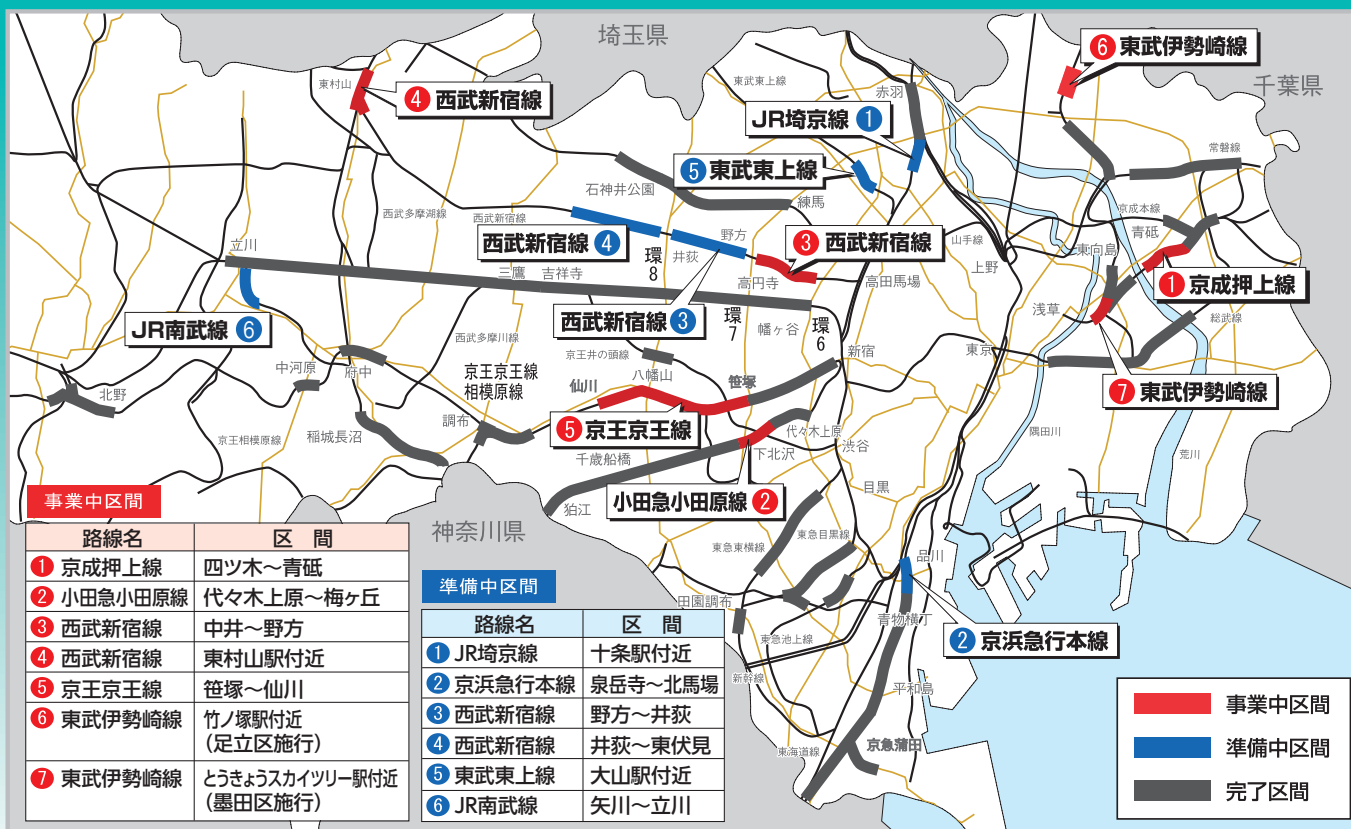
高架下の活用

まちづくりの進展

渋滞がなくなり、にぎわいのあるまちになります。



石神井公園でのかいぼりの様子

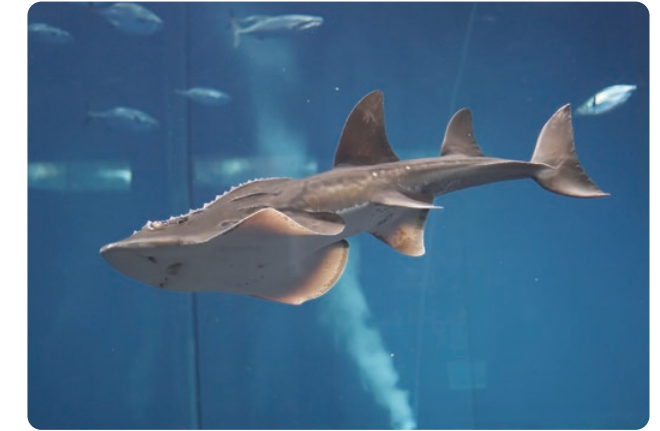


全国街路事業コンクールで国土交通大臣賞を受賞しました



西武池袋線(練馬高野台駅～大泉学園駅間)

連続立体交差事業は、東京都等の地方自治体が事業主体となり、道路整備の一環として社会資本整備総合交付金及び防災・安全交付金により実施しています。



貫禄たっぷりのシノノメサカタザメ

葛西臨海水族園 飼育展示係 市川啓介

「大洋の航海者」エリアの「マグロ」水槽では、シノノメサカタザメを展示しています。シノノメサカタザメは「サメ」とつきますが、えら穴がお腹側にあり、エイに分類されます。最大で3mになる大型の種で、海底付近を泳ぎ、主に底生性の甲殻類や魚類を捕食しています。

展示中の個体は、平成29年(2017年)9月にシンガポールシー・アクアリウムで繁殖し、水族園へは平成30年(2018年)5月に到着しました。そのときの全長は約1.3mとかなり大きく、輸送用のケースは特別に用意された巨大なものでした。

この先、この個体が順調に育つかどうかは、私たちの腕の見せどころ。展示水槽には、動きの早いサバ科のハガツオとスマが中層を群れで泳いでいます。そこで、シノノメサカタザメに確実にエサを届けるために、水槽の底に着いたときにエサが撒かれる「くす玉」のような道具を使うことにしました。これにより、ハガツオとスマに横取りをされる心配はありません。シノノメサカタザメはとても食欲旺盛で、エサを食べた後もまだまだ物足りないのか、水槽の底スレスレを泳ぎまわり、何かないか探しているようです。広い水槽でよく泳ぎ、よく食べているので、見る見るうちに大きく成長してくれるのではないかと期待しています。泳ぎ方も力強く、貫禄すら感じます。

動物園の“かお” 井の頭自然文化園 ヒツジ



平成30年(2018年)7月に上野動物園から井の頭自然文化園にやって来たヒツジの「アリス」と「ベル」(ともにメス)です。ぜひ会いに来てください。